



特定非営利活動法人

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

2006年度 事業報告書

◆FTCJ 事務局◆

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル3F

TEL&FAX:03-3835-0221

Email:info@ftcj.com URL:http://www.ftcj.com

2006 年度事業報告書

2006 年 4 月 1 日から 2007 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

1. 2006 年度事業を実施して

本年度の大きな活動の一つとして、子ども活動応援事業の「FTCJ 夏キャンプ」活動を北海道支部と協力して実施したことがあげられます。今までは事務局に所属する高校生や大学生、社会人が中心スタッフとなってキャンプの運営を行っていましたが、2006 年度は北海道支部の中高校生メンバーが主となってキャンプのプログラムを考え、運営し、参加者へ子どもによる活動の可能性や意義が伝えられた点で大きな成果となりました。反省点としては、事務局と支部とが遠距離なため、顔が見える話し合いができず事業の実施のための連絡がうまくはかれなかった点や、事務局による支部へのサポート体制の不備などがありました。反省を今後の事業実施体制への課題とし、活かして行きたいと思えます。

また、「フィリピンの少女ピア」の出版の実現と、出版記念としてフィリピンの人権活動家ピア・コーベラさんを日本に招き、「ピア来日キャラバン講演会事業」を実施したことで、あたらしいメンバー(会員)や支援者の獲や、協力者とのネットワーク構築、複数のメディアで活動が取り上げられたことでの多くの人への団体活動や児童労働の現状の周知などにつなげることができました。

そのほか、団体が保有する個人情報管理のためのデータベースを構築し、より良い事業運営と反映につながるよう有償での事務所作業スタッフ(アルバイト)を置いたことも団体にとっては初めての試みとなりました。これにより、情報の整理ができ煩雑だったデータ状況が改善されましたが、資金不足のために多くの作業ができず、次年度以降に引き継ぐ形となり、この管理業務と組織強化のための人件費確保が今後の課題であり、必須事項です。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 子ども主体事業

事業担当者: 子ども代表委員

○チームメンバー(子ども代表委員): 加藤真理子、高橋久美子、谷方秀美、二木緑葉、原口華奈、三好そよ香

子ども主体事業は、2006 年 6 月に開催した総会では、「子ども活動応援事業」内の活動として組み込まれていましたが、その後開催した 9 月の臨時総会にて、子ども活動応援事業から独立して「子ども主体事業」を置くことが承認されましたので、ここでは、「子ども主体事業」という項目を新たに設置して報告します。

1 年間をふりかえって

○事業を実施した感想など(子どもサミット報告書より)

一般からも参加を認めた従来の交流会だと、FTCJ メンバーの子どもにとってはつまらないと考え、ただの交流会ではなく、FTCJ 中の問題などについて話し合える機会をつくることを目的にしました。企画当初は 06 年 12 月末に開催予定だったものの、本番まで数週間と迫った時点で実施に持ち込める状況ではなかったため、春期休暇中の 4 月に延期。

延期決定後もさまざまな理由で実施することは大変だったのですが、前日に初めて顔を合わせた子ども代表委員同士は、直前に綿密な打ち合わせを行うことで準備期間の短さと意思疎通の欠乏をカバーしました。

○子ども代表委員経験者の感想

短所・4 月からチャット会議をしました。

→チャットだと相手の顔が見えず、意思疎通がはかどらないことが問題点。チャット会議は本当に難しい。

長所・子ども代表になると経験できることは増えると思えます。

○子ども代表委員としてよりよい事業を実施するためへの改善案、希望

・子ども代表委員就任後に新規委員全員が東京で会する場を設けるなど、一度会ったほうが良い。

活動報告：子どもサミット

評価と概要(内容)	子ども主体事業として FTCJ サミット2006を実施しました。期間は一泊二日。 対象:FTCJ 各支部長・支部代表者・子どもメンバー 対象人数:10名 目標:子どもメンバーの交流とともに、FTCJの子ども活動について話し合い、新たなルールを作る。つまり、FTCJ内における子ども活動の基盤作り。子ども活動を活発化させ持続可能なものにする。
経費	233,800 円(交通費補助として:子ども代表委員(スタッフ)全額補助/支部長及び代表者(1つの支部に1~2名)8割補助)
参加者	・子ども代表委員 5人(うち1人は交流会のみ参加) ・支部長 3名 ・支部メンバー2人 ・事務局員 8人 合計 18人
実施日・場所	<イベント名>実施内容と出された意見のまとめ
007年4/1(日)13:00~ 4/2(月)17:00解散 (当初の計画では、06年度中に実施予定だったが、参加人数の関係で4月以降に変更となりました) サミット開催地:宿泊地 近くの公民館 宿泊地:理事・事務局員宅	<サミットプログラム> ねらい:FTCJ 団体や、子どもメンバー、支部の現状を知る。 1.アイスブレイキング 2.子どもサミットの経緯説明と子ども代表委員の役割やイメージを問う。07年度以降の全国キャンペーンについて意見を聞く。 3.参加者による活動紹介と報告 ・どうしたら子どもが活動しやすくなるか →「みんなの悩み」で挙げられた活動についての悩みをもとに解決方法を思案し、どうしたら子どもが活動しやすくなるかについて考えました。 ・FTCJ 子ども活動における問題点や改善点を挙げ、改善方法をディスカッション(地方や初めの部分、引継ぎや人材育成) 4.FTCJ事務局と子どもメンバーとのかかわりについて →子どもが活動する上でサポーターとの役割の関係や、子ども主体とは何か?というところから、どうしたら子どもが活動しやすくなるかを考えました。 ・NL 編集長引継ぎや事務局で分からないことの一部を検討 ・FTCJ事務局について各支部との意見交換、事務局との対談。 ・FTCJ事務局内の事業についての質問、要望 →記録として子どもサミット報告書を作成しました。

FTCJ子どもサミットの様子



事務局員との対話の時間をもちました。(右)

子どもメンバーで意見を出して模造紙に貼り付け整理しました。(左)



(2) 子ども活動応援事業

事業リーダー : 永野恵理(社会人)

チームメンバー : 井上皓子(大学生)、中島早苗(社会人)、町井望(社会人)、その他

事業内容(事業の目的と役割)

- 1) 国内の子どもが、世界各地の開発途上国を中心として児童労働など苛酷な状況に置かれている子ども達の支援の企画・実行及び交流などを主体的に行えるように育成する。
- 2) 国内外の平和と子どもの権利の擁護を求め、子ども参画を果たすための子ども応援を行う。

事業内での活動

- ・プログラム開発(子ども活動家育成のためのプログラム開発)
- ・子ども育成(子ども育成のためのトレーニング実施: 講座、夏キャンプ、FTCJ 子どもサミットのサポート)
- ・相談窓口(資料提供: 事務局関係窓口につなぐ橋渡し。悩みを抱えたメンバーや、以前に活動を通して問題など経験したことのあるメンバー同士をつなげ、問題解決につなげる。全国の子どもメンバーとの定期的な連絡づくり。)

活動報告: 子ども活動応援事業/育成

市民活動講座 連続3回 ~児童労働と子どもの権利のワークショップ~

概要(内容)	児童労働の現状や子どもの権利について伝えるため、テーマごとに講師を招き連続講座(スピーチとワークショップ)を実施。回数は全部で計3回。			
感想・振り返りなど	3回の講座受講後は、参加者ひとりひとりが児童労働の問題を「知らせること」をスタートするを目標としましたが、3回連続での受講参加者の登録はありませんでした。しかし、各回多数の参加者があり、多くの人に問題や権利を伝える機会の提供が実現できました。ワークショップというアイデアは参加者が理解を深めるのに大変有効でした。プログラム運営のためのやる気のある大学生スタッフはいても、時間がとれず、4回以上の実現とはなりません。今回は資金調達がうまくいかず、第1回目終了後のミーティングで、全メンバーに交通費の支給をせうで行うことと決定しました。スタッフと資金を確保するなど事業運転のための今後の運営体制を見直す必要があると感じています。			
実施期間: 7月、8月、10月に1回ずつ 計3回	経費(千円): 40	スタッフ数延べ8人	評価: 5段階中 4	
実施日・場所	主催者	<イベント名>活動内容、ゲスト講師	事業実施者	対象者数(参加者)
7/2(土) 上智大学講堂	FTCJ	<なくそう! 子ども買春カンボジアでの活動> 性産業で働く子どもの実態とその取り組み ゲスト: 甲斐田 万智子さん (国際子ども権利センター代表 カンボジア在住)	子ども活動 応援事業育 成チーム 7人	子ども・学 生・社会人 計18人
8/5(土) 上智大学講堂	FTCJ	<100人の村に住んでみよう! 見て、感じて、動いて学ぶ児童 労働と子どもの権利> ゲスト: 森田 明彦さん(子どもの権利活動家 千葉県在住)	拓殖大学サ ポーターチ ームメン バー 7人	子ども・学 生・社会人 計15人
10/29(日) 上智大学講堂 → アドボカシー 事業内イベ ント活動と連動	FTCJ	<ピア・コーベラ講演会と買春被害の子どもを考えるワークシ ョップ> 性虐待を乗り越えて活動するピアさんから児童労働について、 買春 問題について、子どもの権利を知ったことやセラピーを受 けたことで心の傷を乗り越え、自らの体験を語るまでになったお 話とワークショップ ゲスト: ピア・コーベラさん(子どもの権利活動家 22歳 フィリ ピン・プレダ基金所属スタッフ)	育 成 チ ーム、フィ リピン支 援チ ームな ど 計8人	子ども・学 生・社会人 計44人

活動報告：子ども活動応援事業／相談（メンバーサポート窓口）

FTCJ 子どもサミットのサポート

- ・ 期間：子ども主体事業の「子どもサミット」の企画段階から、実施まで（～07年4月まで）
- ・ 子ども代表委員と連絡をとり、情報提供、実施期間中の材料、場所などの協力
- ・ 子どもサミットで出された意見などを事務局、理事に報告しました。今後の組織体制、運営改善につなげたい。

活動報告：子ども活動応援事業／育成

FTCJ 夏キャンプ IN 北海道 2006

<p>概要（内容）</p>	<p>途上国の子どもの現状や平和について考える合宿形式の育成事業。FTCJ 北海道支部と協働して事業を実施。支部の子どもメンバーによるプログラム企画、運営を実現。</p> <p><目的></p> <p>1) 国際問題を提示し、子どもが取り組める国際協力を示すことで参加者の世界を見る視野の向上を目指す。</p> <p>2) 企画・運営に携わる中高生の社会性、自主性を養う。</p> <p>3) 全国の同年代との交流によって、市民活動時代の新芽を育む。</p>		
<p>感想・振り返りなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道支部のメンバーによるワークショップや、参加者同士で取り組んできた活動を紹介しあうことで、参加者は刺激を受け多くのことを考えることができたようです。また、フィリピン支援チーム所属の大学生による体験談を聞いた参加者は児童労働やストリートチルドレンの過酷さを学ぶことができました。 ・ 予算額が集まらず、収支バランスがマイナスに。資金調達をするためにも、早めの企画が必要。 ・ 事務局と支部との連携での事業運営は、それぞれの役割を明確にすることが重要であるとわかりました。事務局サポート体制の不十分さにより支部の子どもメンバーが不安や悩みを抱えてしまったなど反省材料がありました。課題として今後の夏キャンプの運営へ活かして行かなければいけないので、事業実施後事務局内で報告してシェアしました。 		
<p>実施期間：8月9日（水）～11日（土）</p>	<p>経費（千円）：423</p>	<p>スタッフ数延べ6人</p>	<p>評価：5段階中 3</p>
<p>場所： 北海道ニセコ高原 ユースホステル</p>	<p>プログラム内容</p>		
<p>参加者： 子ども・学生・ 計12人</p>	<p>① 国際問題についての資料を提供（ビデオ、ワークショップ、フィリピン訪問体験談などを通して途上国の貧困層の子どもの現状、特に児童労働について紹介）</p> <p>② リーダーシップトレーニング （FTCJ 及び FTC 独自の、青少年が社会活動に取り組む適応能力を養うため個々の能力を引き出すトレーニング）</p> <p>③ 行動計画の作成 （問題解決に繋がる具体的な行動案作り）</p>		
<p>事業実施者： FTCJ 北海道支部 6人、 子ども活動応援事業 育成・キャンプチ ーム、フィリピン支 援チ ーム</p>	<p>世界の困難な状況にいる子どもの現状を学び、具体的にその問題に取り組むためには、どういった行動を起こせるのか、取り組みについて計画を立てて一歩につなげる。 また、そのスキルの提供と意見のシェア、ディスカッション、改善、発表、その評価</p> <p>④ 参加者の子ども間のネットワークづくり 子ども活動家の報告会 →北海道、広島、熊本、関東からの参加者の各地域での活動や支部としての活動をビデオやスピーチ、資料などで紹介し、情報交換をしました。</p>		
 <p>写真：ユースホステル前にて参加者全員で</p>			

(3) 外部ネットワーク事業

事業リーダー : 伴野保志(社会人)

チームメンバー : 野川未央(CL ネット担当)、その他

様々なセクター、組織とつながってネットワークを構築、参加し FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを目指す事業です。今年度もいろいろな活動を行いました。

<2006 年度参加構築したネットワーク>

- ・ JNNE(教育協力 NGO ネットワーク): 開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。
- ・ 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン: 世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA(万人のための教育) 運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動をしています。JNNE 加盟団体や日本教職員組合 5 組織で実行委員を構成し、実施しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 児童労働ネットワーク(CL ネット): 児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。自動労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されており、その中から運営委員を選出し設置しています。FTCJ は運営委員団体として参加。
- ・ 日比 NGO ネットワーク: フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。
- ・ ほっとけない世界の貧しさキャンペーン: 世界の貧困問題を解消するために活動するネットワーク。FTCJ もキャンペーンに賛同し、参加しています。
- ・ その他非営利組織への会員登録
よりよい事業の運営のため JANIC、日本 NPO センター、DEAR の団体会員登録を行いました。
その他、労働組合(NTT 労組)や関西で活動する組織とつながってイベントへの参加協力を行いました。

<ネットワーク事業としての活動一覧>

ネットワーク名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲・人数	支出額(千円)
JNNE	JNNE からの情報を事業担当者や会員へ提供	通年	-	2 人	会員全体	5
世界中の子どもに教育をキャンペーン	ウェブサイトへの情報提供のための情報収集と、参加の呼びかけ	4 月	-	2 人	会員全体	-
CL ネット	児童労働に関する映画上映会「僕たちも学びたい～貧困と闘う子ども労働者たち」と児童労働反対世界デーウォーク(渋谷・表参道)の準備、広報、運営協力	6/11	UN ハウス 3 階国際会議場/ 渋谷・表参道	3 人	420 人	5
CL ネット	学習会企画運営協力 「ピア・コーペラ講演会」 ※アドボカシー事業詳細あり	10/29	JICA 地球ひろば(東京)	5 人	60 人	-
日比 NGO ネットワーク	発足会、フィリピンでのフォーラム、国内での集まりに参加	10 月、11 月	東京、マニラ	5 人	-	-
NTT 労働組合・大阪	児童労働撲滅キャンペーン 06in 大阪への参加、ブース出展	5/19	大阪南港 WTC フェスパ広場(大阪市)	4 人	2,000 人	-
NTT 労働組合・横浜	児童労働撲滅キャンペーン 06in 横浜への参加、ブース出展	6/4	横浜駅東口新都市市ホール・新都市プラザ(横浜市)	8 人	2,000 人	-
児童労働を考える関西ウォーク	国際子ども権利センターとの共催 大阪・御堂筋でのウォークを企画、準備、運営を実施	6/11	御堂筋を南下(大阪市)	1 人	20 人	15
児童労働関西イベント	国際子ども権利センターとの共催 「僕たちも学びたい～貧困と闘う子ども労働者たち」の上映会と子どもの権利ワークショップの企画、準備、運営	7/15	アムウェイ大阪会議室	1 人	10 人	- 6

(4) アドボカシー(啓発)事業

事業リーダー : 永野恵理

チームメンバー : 井上皓子、斎藤隆太、佐藤美紗子、仲尾千枝、召田安宏、その他

1年間をふりかえって/リーダー所感

○事業全体について

子どもメンバーが主体であるフィリピンチームのアドボカシー活動をサポートする機会が多くあった年度で、充実した年度となりました。子どもから社会へ伝えるのは、素直に聞いてくれる市民が多く、気づきの機会が広がるようです。より詳しい説明よりも、まずは「きっかけづくり」がアドボカシー事業の役割ではないかと思いました。

○リーダーの一言

準備期間に多くのスタッフの働きがあり、地道に努力を積み重ねてイベント当日を向かえることができます。1人ではできないことが、多くの仲間が力をあわせて実行することができます。多くの人間で1つのことを実施するのは、考えるより難しいことですが、地球に住む全ての人々が協働して生きていく事を模索するのと同じ事で活動には気づきが多くありました。活動を通し自分自身も成長することができ、共に働いたメンバーと参加者の皆様に感謝します。ありがとうございました。

○これからの抱負

今年度で事業リーダーを中島早苗さんにバトンタッチします。子ども活動スピーカー派遣や講演会などを中心になって活動されている彼女は、より適任者だと考え私からお願いしました。もちろん、07年度もチームメンバーとして活動を支えていきます。これからもよろしくお願いします。

○イベント事業について

スタッフがおとなだと、児童労働の説明はできても、子ども主体を重要視する団体であることのアピールが難しい。イベントで団体の説明をすると「何でおとなが説明しているの？子どもメンバーは？」と聞かれる。子ども会員やおとな会員の獲得などのための説明それぞれがどんなことができるのか明確に説明しにくかった。今後は、子どもメンバーがイベントをすることをサポートすることに重点を置いたほうがよいのではないかと考えています。

また、今年度は、「フィリピンの少女ピア」出版とピア・コーベラさん招聘事業(しょうへいじぎょう)をアドボカシー事業のメイン活動として実施し、多くの方と連携つながることができました。ご協力いただいたみなさま(本を読んでもらった方、講演会に来て下さった方、その他ご支援いただいた方)本当にありがとうございました。

活動報告: イベント 担当: 斉藤 隆太

・日時(期間) ・開催場所	<イベント名> ・活動内容 ・感想	担当者/スタッフ数	対象者/ 参加者数	経費 (千円)	評価 5段階
・4/15(土)、 16(日) ・代々木公園	<昇竜 2006> ・主催者:(特活) gapyear japan ・国際協力、ボランティア、インターンシップ、留学、ワーキングホリデー、ワークキャンプなど様々な活動を行うNPOや学生団体がブースを出展し、来場者に活動の情報を提供するイベントに参加し、物販や活動紹介をしました。 ・感想: 来場者が少なかったため販売もあまりできず、その後の活動にあまりつなげられず非常に残念。	吉岡加奈、 佐藤美紗子 その他FTC Jスタッフ4人	ブース来場者 約20人	10	1
・9/10(日) ・東京都台東区丸幸ビル	<NGOまつり in 上野 2006> 「NGOだらけのビル、一日開放します!」 ・丸幸ビルに事務所を構えるNGO同士で協力し、国際協力分野のことを紹介するお祭りを実施。『100円でできる国際協力』、民族衣装体験、ゲーム、フィリピンスタディツアー報告会など様々な企画が催されました。FTCJではフェアトレード商品なども販売。 ・感想: 子どもメンバースタッフが少なく参加者を活動に巻き込めなかったのが残念でした。活動報告を聞いてもらえてよかった。	斉藤隆太、 永野恵理、 鈴木悠仁子、その他 FTCJスタッフ 5人	国際協力に関心のあること も・おとな 約259人が 来場	1	4
・9/30(土)、 10/1(日) ・日比谷公園	<グローバルフェスタJAPAN2006> ・国際協力の分野で事業を行う組織(国連、政府系機関、NGOなど)が集うイベントに参加し、ブースを出展しインド料理(サモサ)やフェアトレード商品、書籍、その他物品を販売しました。また、クイズラリーやパネル展示を通して児童労働や貧困問題について紹介しました。	斉藤隆太、 露久保雅樹、 原口華奈、 遠藤恵子、その他 FTCJ15人	ブース来場者 (2つのブース、2日間述べ) 約600人	25	4
・2/3(土)、 4(日) ・大阪国際交流センター	<ワン・ワールド・フェスティバル> 関西で活動するNGOや国際機関などが集ってのイベントでに参加し、ブース出展と児童労働に関するワークショップを実施しました。 ・感想: 3名の会員を獲得でき、書籍などの販売、ワークショップの実施など充実したイベント参加となりました。 写真: ブースで活動紹介をする高校生メンバー 	中島早苗、 永田愛佳、 菅茜、浅田 紀子他2名	ブース来場者 約400人 ワークショップ 参加者: 28人	10	5
2/9(金) カナダ大使館 (東京・青山)	<チャリティーコンサート> カナダ大使館コンサートホールにてインドとフィリピン支援事業運営のためのチャリティーコンサートを実施しました。プロ・アマチュア30人以上の出演協力と企業からの協賛やその他多くの方の来場を得て開催することが出来ました。 協賛: マニユライフ生命保険、プラットフォームコンピューティング、R&Tスポーツ、東洋堂	インド支援、 フィリピン 支援チーム 12人	来場者 220人	238	4

活動報告:特別イベント<ピア招へいプロジェクト:ピア来日キャラバン>

担当:中島早苗

ピア招へい実行委員(FTCJメンバー)(50音順)	太田夢香、小澤寿子、佐光紀子、佐藤美紗子、鈴木悠仁子、惣田真奈美、諏訪真衣子、高橋久美子、田邊のぞみ、津田美矩、露久保雅樹、伴野保志、中島早苗、永田愛佳、永野恵理、西垣春奈、野川未央、吉岡加奈、Prabina Bhandari			
評価と概要(内容)	<p>◆延べ約1900人(そのうち高校生以下の子ども約1600人)に対して講演をしました。</p> <p>「フィリピンの少女ピア」出版を記念し、フィリピンのNGO『プレダ基金』所属の若者活動家ピア・コーベラ氏を日本に招き、自身の体験に基づいた証言を通して、フィリピンの児童労働・その中でも特に「最悪の形態の児童労働」について、虐待や児童労働という過酷な体験を乗り越え自信と尊厳を取り戻した経緯、子どもの権利などをテーマにした日本の子ども・若者・一般向け述べ1900人を対象にした講演会や交流会を実施しました。実施場所は東京、大阪、北九州、熊本などの中学・高校、大学、一般向け会場。</p> <p>・協賛:(株)大月書店、日本航空、NTT労働組合、フィリピン航空</p>			
感想・振り返りなど	招へい事業で多くの子どもと交流を持ち、触れ合うことが出来たことで、ピアさん自身大変喜んでいました。また、ピアのメッセージを聞いた日本のみなさんから、勇気もらった、何か自分自身でも活動してみたい、という感想が多くあったことも印象的でした。			
実施期間:10月27日~11月12日		経費(千円):446		評価(5段階):5
実施日・場所	主催者	<イベント名>活動内容	担当スタッフ	対象者数(参加者)
10/28(土) JICA地球広場	児童労働ネットワーク	<児童労働ネットワーク勉強会> 性産業で働く子どもの実態について	野川、佐藤、伴野、 中島、その他	子ども・学生・社会人計 60人
10/29(日) 上智大学講堂	FTCJ	<性産業で働く子どもと買春被害の子どもを考えるワークショップ> ピア講演会とワークショップ	惣田、遠藤、鈴木、 その他	子ども・学生・社会人計 44人
10/30(月) 明治学院高等学校	明治学院高等学校	<ピア・コーベラ講演会@社会科授業> <FTCJ明学支部との交流会>	中島、明学支部メン バー	生徒130人
10/30(月) 都立国際高等学校	都立国際高等学校	<アジアに見られる性産業での児童労働> >ピア講演会と質疑応答	高橋、中島	生徒90人
11/1(水) 明治学院大学白金	FTCJ	<ピア・コーベラ講演会@明学大> ピア講演会とFTCJとプレダ活動紹介	太田、諏訪、中島	子ども・学生・社会人 計40人
11/2(木) 区立上板橋第三中学校	上板橋第三中学校	<過酷な環境で働く子どもの現状> ピア講演会と質疑応答	中島	生徒350人
11/2(木) 環境パートナーシッププラザ(渋谷)	グローバル・ヴィレッジ	<貧困について考えるセミナー 児童労働とわたしたち> ピア講演会とFTCJ、ACE活動紹介	鈴木、諏訪、吉岡、 佐藤、中島、その他	子ども・学生・社会人 計60人
11/3(金) 三光塾	三光塾(兵庫県)	<ピア・コーベラとの対話> ピア講演会と交流会	中島、永田、藤井、 その他	三光塾の子どもとスタッフ 計20人
11/4(土) 奈良・大阪	FTCJ関西	<ピア・コーベラ歓迎会、交流会> 関西観光	永田、菅、中島、そ その他	FTCJ 関西メン バー12人
11/5(日) 大阪ドーンセンター	FTCJ、国際子ども 権利センター、 エクパット・ジャ パン関西	<ピア・コーベラ講演会~性的虐待から乗り越えた軌跡~> ピア講演会、プレダ基金やフィリピンにおける子どもの保護活動	藤井、永田、中島、 その他	子ども、学 生、おとな 計56人
11/6(月) 大阪府立西成高校	西成高等学校	<総合学習で学ぶ性産業での児童労働> クラス訪問でのピアからのメッセージと交流	永田、藤井、中島	生徒160人
11/7(火) 大阪府立金剛高校	金剛高等学校	<総合学習で学ぶ性産業での児童労働> ピア講演会と交流会	永田、中島、藤井	生徒30人
11/7(火) 大阪府立能勢高校	能勢高等学校	<総合学習で学ぶ性産業での児童労働> ピア講演会と質疑応答	永田、中島	生徒80人
11/7(火) 関西メンバー宅	FTCJ 関西	<ピア・コーベラを囲んでの交流会> FTCJメンバーによるピア歓迎、交流会	永田、中島	FTCJメンバ ー 10人

<ピア招へい事業 来日イベント・講演会・交流会一覧>

実施日・場所	主催者	<イベント名>活動内容	担当スタッフ	対象者数(参加者)
11/8(水)(北九州) 西南女学院高校	西南女学院高等学校	<アジアで見られる児童労働とわたしたち> >ピア講演会とFTCJ活動紹介、質疑応答	田邊、中島	生徒 350 人
11/8(水) ムーブ会議室 (北九州)	アジア女性交流・研究フォーラム	<ピア・コーベラ講演会～性的虐待を乗り越えて～>ピア講演会、FTCJ、プレダ活動紹介、質疑応答	田邊、中島	学生、おとな計 23 人
11/9(木)(熊本) 慶誠高等学校	慶誠高等学校	<アジアで見られる働く子どもたち> ピア講演会、FTCJ活動紹介、質疑応答	津田、牛島、中島、その他	生徒 450 人
11/10(金)(熊本) キッスホームチャチャ	キッスホームチャチャ	<ピアさんを囲んで> 幼児との交流と先生との対話	津田、中島	先生 5 人
11 月 10 日(金) FTCJメンバー宅	FTCJ熊本	<ピア・コーベラ歓迎・交流会>	津田、牛島、その他メンバー	FTCJ熊本メンバー 12 人
11/11(土) 熊本学院大学	子どもの権利条約フォーラム実行委員	<ピア・コーベラ講演会～子どもの権利と性産業における児童労働> ピア講演会と質疑応答	津田、谷方、中島、その他メンバー	子ども、学生、おとな計 80 名

<配信記事・ニュース一覧>メディアでの報道 : 今回、多くのプレス関係者のかたに取材をして取り上げて頂きました、ありがとうございます。(20 件以上)

共同通信	9 月下旬～10 月中旬	全国の地方紙でピアの本や来日紹介
朝日新聞 関西	10 月 28 日(土)朝刊	虐待・児童買春、根絶を(大阪での講演や本の紹介)
インターネット新聞 JANJAN	11 月 1 日(水)～	愛とケアと理解ーピア・コーベラの願い http://www.janjan.jp/world/0611/0610300730/1.php?action=tree
朝日新聞 関東	11 月 4 日(土)朝刊	元児童売春のフィリピン女性、都内の中学生前に講演 http://www.asahi.com/edu/news/TKY200611040103.html
読売新聞 関東	11 月 5 日(日)朝刊人物語	8 歳で買春被害 再起した比女性 来日重ね同世代と交流 「子どもを救う」夢前進(明治学院高校支部との交流など)
デイリーヨミウリ(英字新聞)	11 月 6 日(月)	On a mission to help Filipino children 読売新聞関東版の英語版
Our-Planet TV	11 月 8 日～	インターネットニュースにて配信。ピアへのインタビューもあり。 http://www.ourplanet-tv.org/
しんぶん赤旗 関西	11 月 7 日(火)	フィリピン女性語る 性的虐待を受けた子ども支援して 大阪でのピア講演会の様子など
熊本日日新聞	11 月 9 日、10 日(金)	比の児童労働 過酷さに絶句 熊本市・慶誠高校で NPO が講演会
NHK おはよう関西	11 月 10 日(金)	関西の金剛高校での講演会と交流の様子など ピアのインタビューあり
TKU(テレビ熊本)	11/8(水)	『子どもの権利条約フォーラム』準備進む http://210.128.247.29/newsfile/view_news.php?id=10265 11/10(金) 子どもの人権守ろう 慶誠高校で講演会 http://210.128.247.29/newsfile/view_news.php?id=10284
ヨミウリジュニアプレス	12 月 2 日(土)	性的虐待もうたくさん 子どもの権利訴えるピア・コーベラさん来日紹介
朝日ヘラルドニュース	11 月 25 日-26 日	A nightmare of endless abuse(英字新聞)
しんぶん赤旗日曜版 Y's モード	11 月 19 日号	そのとき私は 8 歳だった～買春被害をのりこえて
週刊金曜日	2 月	ピア・コーベラ来日紹介とアジアの買春について
広報枚方	2 月号	世界の子どものための援助を～本の紹介/ 枚方市市民に向けた広報誌
読売新聞 関西 夕刊	2 月 3 日(土)	PEOPLE ひとり抄 児童虐待の実態訴え 団体および書籍紹介
読売新聞 関東 夕刊	12 月 28 日(木)	交差点 夢への前進 ピアと FTCJ メンバー太田夢香さんのソロプチミスト賞受賞記事
その他		複数の雑誌にて書籍出版の紹介がありました。

○その他のアドボカシー事業報告

事業名	内容	作業実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ニュースレターの発刊	NL 12号 特集☆ネパール訪問報告	5月	-	3人 (記事執筆者含まず)	会員、NL定期購読者及び購入者 各号平均150人	管理費として報告
	NL 13号 特集☆報告 夏キャンプ2006 in 北海道	10月				
	NL 特別号(14号) フィリピン、インドスタディツアー報告	3月				
	NL 15号 特集☆ピア来日報告	07年度				
スピーカー派遣及び事務所訪問対応	世界の貧困、児童労働問題、子どもの権利、それに対する取り組みとして団体活動紹介を行った。可能な限り、中高生メンバーが参加した。 担当：高橋久美子、原口華奈、鈴木悠仁子、吉岡加奈、遠藤恵子、菅茜、永田愛佳、永野恵理、中島早苗、他	通年	東京、神奈川、埼玉、大阪、兵庫	12人	関東、関西の学校や一般向け施設などにて 約1200人	交通費分を管理費として報告
ホームページの開設運営 ※下記参照	ホスティングサーバー移転 HyperBox→Jcafe	10/21～	-	2人	※1日平均300人程度のアクセスがある。	管理費として報告
	掲示板のCGIファイルへの直接アクセスや、サーバーのルート階層へのアクセスなど悪意のあるアクセスは合計で6800程度の為、実質のアクセス数は3500程度である。	1月～				
資料開発	児童労働や団体活動紹介パネル	5～10月	事務所	4人	子ども、一般	5
	開発教育教材の開発と作成 ・児童労働ゲームカード改訂版 ・貧困の仕組みを考える教材作成 ・100人村体験WS資料作成	7～3月	事務所・大阪連絡所	述べ6人	子ども、一般	15
	フィリピン・スタディツアー報告書制作	4～9月	事務所、他	10人	子ども・一般	-
	インド・スタディツアー報告書制作	12月	-	10人	子ども・一般	-
出版	「フィリピンの少女ピア」出版	8月	フィリピン、他	2人	子ども、一般	372
	Take Action 出版準備	通年	事務所、他	3人	子ども、一般	-

※<FTCJホームページ関連資料> 2006年10月21日～2007年6月13日まで

表1: WEB ページアクセス数

	1日平均	月合計
2007年6月	284	3412
2007年5月	285	8579
2007年4月	256	7685
2007年3月	337	9776
2007年2月	369	10351
2007年1月	337	10459
2006年12月	251	7792
2006年11月	326	9798
2006年10月	243	2680
平均:	299	合計: 70532

表2: 2007年1月アクセスディレクトリ TOP10

順位	アクセス数	ディレクトリ
1	3001	/cgis/ftcj-keiji/yyregi.cgi
2	2067	/cgis/ftcj-keiji/ftcj_keijiban.cgi
3	1472	/
4	260	/cgis/ftcj-keiji/./yyregi.cgi
5	166	/new/event_charity07.html
6	83	/new/event.html
7	76	/aboutchildren/book.html
8	69	/activity/philipine_pjt.html
9	60	/cgis/event/event_index.cgi
10	59	/lets/donation.html

(5) 海外自立支援事業

事業リーダー：フィリピン支援：鈴木悠仁子(高2)/インド・カンボジア支援：遠藤恵子、竹内悠子(大学生)/その他：中島早苗
チームメンバー：フィリピン支援：15人 / インド支援：21人

1) フィリピン自立支援事業

1年間をふりかえって

○一年をふりかえって

一年前作成した事業計画を見ると、予定通りにっていないものばかりで、計画の不十分さを感じる。絵本やこども新聞、全国キャラバンなど、プロジェクトとして確立しきれなかったものも多い。でも、今年初めてチャリコン運営チームに参加しミンダナオの支援金を集める事ができたのは良かった。また、スタディーツアーも参加者がたくさん集まり、充実したとても意味のあるものになった。また、プレダ基金からピアが来日した事などにより新しいメンバーも増え、やる気の高い良いチームを作ることができた。サポーター、大学生、子どもメンバーがそれぞれ上手くチームの活動に関われたと思う。

○リーダーの一言

リーダーとして反省は多いが、今メンバーがとても楽しく活動しているので、そういうチームに出来た事はとても嬉しい。サポーターと子どもメンバーの線引きや、事務局や全国支部との関係など、ポジションが難しいチームではあるけど、その位置にいるからこそできることが必ずあると思うので、それを確立していきたい。私は9月から10ヶ月間留学してしまうので、引継ぎは不安だし、申し訳ない気持ちもあるけど、たくさんの仲間やサポーターがいるので、皆が上手く協力して活動していけるようなシステムを作ってから旅立ちたい。

○これからの抱負

実現可能で具体的な計画を立て、毎回その計画を皆で確認しながら事業を進めていきたい。プロジェクトが多すぎるので、いくつかにしぼって集中的にやる。スタジアに参加したメンバーが活動を継続していけるようにする。東京支部や名古屋支部を始め、全国の支部やメンバーとのつながりを作っていく、お互いパワーアップしていく。フィリピンの情報を発信していただくだけでなく、勉強会やセミナーなどに参加して、チームを高めていきたい。今後は、毎回の事務局 MTG で、各事業の状況を計画書と照らし合わせて確認した方が良いと思う。

<フィリピン事業支援実績>

事業名	事業報告と感想	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
プレダ基金支援	明治学院高校支部の募金活動による寄付金や、その他支援者からの寄付金によって、刑務所から救出された少年更正支援施設運営のために活動資金を渡すことができた。また、フィリピンの少女ピア出版の収益からも支援を実施。	通年	プレダに保護された少年・少女 120人	180
タタグ支援	2005年度の3月スタディーツアーで現地の事務所を見学し、必要性を感じたので、支援の継続を決めた。年間18万円かかる事務所維持費を支援した。月ごとに送金すると手数料などが余計にかかってしまうので、1年分を先に送った。寄付金の他に、イベントの際の募金や販売の利益などで今までまかなおうとしていたが、それらの収入は不定期で安定しないので、何か違う方法を見つける必要がある(→文通!)。また、いつ誰から寄付金が送られてきているのかをフィリピンチームが把握していないのも問題がある。フィリピン事業に関わる寄付金が届いた場合は、金額や使用用途を定期的に(月に1回とか)報告を受けるようなシステムの確立が必須。	通年	路上で働く子ども、および貧困層の子ども 400人	210

事業名	事業報告内容と感想	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ミンダナオ島紛争地域子ども支援(CRC)	チャリコンの収益をミンダナオの団体 CRC に寄付することができ、とても喜ばれたので良かった。KPACIO とパートナーシップを組んでいる CRC は、組織は小さいものの企画や運営、振り返り、報告などをしっかりしていて、活動目的も明確であり、また支援をとても必要としていることから、FTCJ が関係を築いていくのにとっても良い団体だと思った。	通年	紛争被害を受けた子どもも 60 人	40
新聞交換活動	広報文を作り、HP や ML で呼びかけたものの、参加希望者がいなかったので、プロジェクト自体に企画の考え直しが必要。さまざまなプロジェクトを進めていく中でどうしても優先順位が低くなってしまいがちだったし、担当の原口華奈ちゃんが今年受験で活動できないため、今年度はこの事業は一時停止。	通年	—	—
絵本製作	思ったとおりにいかない部分が多かった。まず、自分達の思い描く絵本と、現地が必要としている絵本の種類が異なりすぎている。現地スタッフは「教材」的な絵本を要望する。また、作成キットやサンプル等を作れば、全国メンバーに制作を依頼できる形になると期待していたが、実際には、直接会って教えないと作れないような複雑な仕掛けを作ってしまったりし、うまくいかなかった。※制作した絵本の画像は下にあり。	7月以降	紛争被害を受けた子どもも 60 人	5
スタディーツアー	初めて旅行会社と組んでツアーを行ったことで、ウェブでの一般募集が可能となり、たくさん参加者を集める事が出来た(スタッフ含め 14 人)。名古屋や福島、大阪からの参加もあり、今後のネットワーク作りの良いきっかけともなった。チームとして現地 NGO スタッフにやりたいプログラムの案を出し、充実したツアーを作れた。お金の管理や移動の時などに必ず大人の力が必要と感じた。予算にもう少し余裕を持つべきだった。3 人のスタッフがスタツア後ミンダナオに行ってしまう、成田まで同行できるスタッフがいなかったのは、反省すべき点。	3/22～30	12 人	360

<現地に送った絵本↓>



2) インド・カンボジア自立支援事業

チームメンバー: 片野由加里・木内さゆり・蔵本順・鈴木理紗・西田純子・遠藤恵子・横山靖浩・大麻真衣子・杉山明日香・田野真由佳・古津真弓・松清ばいん・吉田淳・荻野剛生・山本彩加・山本沙希・落合恭子・小林里菜・品川夏乃・志村綾子・齋藤郁恵

CCD(FTC インド)支援について

インドの西ベンガル州カルカッタにある NGO 組織、CCD(Centre for Communication and Development)=FTC インドとネットワークを組み CCD が運営する施設(マクタニア学校及びマクタニア子どもの家)にいる子どもを支援する事業。

<CCD 活動内容>

1978 年、この団体の代表スワパン氏と友人アミタバ氏が開発について学びながら大学卒業前に CCD を設立した。本部はカルカッタにあり、その地域の子どもや女性が教育を受けることによって自立した生活ができるようにすることを目標としている。農村部を中心に 64 の学校を運営している。他にも過酷な状況で働いている子どもたちを救助して、本部にあるシェルターでベンガル語、英語、算数などの授業や職業訓練を受けてもらったり、農村部の



人々の収入を上げるために「収入向上プロジェクト」など、様々な活動をしている。

↑ CCD 本部とマクタニアスクール

NEWT 活動内容について

実業家のシェラズ氏と、彼に共感するパートナーたちにより、スラム地区で暮らす貧しい子どもたちへの教育提供を実施するため、1998 年にインドのムンバイに設立された。スラム地区で暮らす子どもたちのための学校であるリムラスクールの運営を主にしている。他にセミナーやワークショップを通じた、教育に対する保護者の意識の啓蒙活動も行っている。

→リムラスクールで学ぶ子どもたち



感想・ふりかえり

○一年をふりかえって

今年もスタディーツアーを行い、カルカッタではCCDのシェルターやマクタニアスクールの新校舎、農村部の学校を視察することができました。また子どもたちの映像も撮影することができ、ツアーに参加したメンバーに彼らの様子を知ってもらえることができました。ムンバイのリムラスクールでは、全ての教室を買い取ることができ、子どもたちも安心して勉強できるようになりました。CCDへの支援に関しては、文化交流や物資での支援が中心となりましたが、スタディーツアーなどを通して現地の状況やニーズをより知ることができました。

○リーダーの一言

本当に現地に必要なものを知り、支援してゆきたいです！

○これからの抱負

日本のたくさんの人にCCDなどの活動、そして子どもたちの様子を知ってもらいたいです。そして、CCDが必要としている支援にこたえられるよう、講演会、勉強会などに力を入れ、また資金を集めてゆきたいです。

<インド・カンボジア支援事業実績>

事業名	内容	実施日	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
インド (CCD) 支援	CCD が運営する元児童労働者や貧困から救出された子ども(少年)が生活している施設「マクタニア子どもの家」の運営費や子どもの教育費を支援。支援者を募るための広報ツールを作成。また、資金調達のためチャリティーコンサートなどを実施し、集めることが出来た。その他、スタディーツアーでシェルターを訪問、シェルターに住む子どもたちとメンバーが交流した。また、文房具や英語に翻訳した絵本をおくった。	通年	マクタニア子どもの家の少年40人	20 その他支援金は07に繰越
NEWT リムラスクール 支援	リムラスクールの教室の買い取りのための資金調達を行い、支援を完了させることができた。文房具や日本語を英語に翻訳した絵本の援助物資の寄付や、スタディーツアー参加者との文化交流を実施	4月～10月	300人	1,200
スタディーツアー	FTCJのパートナー団体のCCD、やNEWTを訪問し、支援事業のモニタリングや現地の貧困の中にいる子どもや働く子どもの調査を実施。リムラスクールで物資援助、文化交流などを行った。	8/12～19	10人	130
カンボジア 支援	カンボジアの性的虐待を受けた子どもの救出保護をしているHCCへの支援は、ウェブで情報を発信する以外、特にできなかった。今後はどのような支援ができるか要検討。	—	—	—

<支援している子どもの事例/マクタニア子どもの家にいる子ども>

名前: アルジャン・マンディ 年齢: 10歳 家族構成: 母・兄2人

支援されるようになった背景: 母親がその日稼ぎの農業の仕事をしており、兄2人も働いているので家に一人でいなければなりません。そのため言葉に問題を抱えており、他人とのコミュニケーションがうまくとれていませんでした。



(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業報告

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
翻訳事業	事業の運営に係る資料を日・英に翻訳。	通年	—	15人	—
メンバー管理	アクセスのデータを構築し、メンバーや協力者などの個人情報を整理し、管理。有給スタッフを設置したことで、情報入力を図れたが、完全にはできなかったため07年度に引き続き実施する。	8月、10月～3月	事務所	5人	80
問い合わせ対応	電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例:事務所訪問、出張講演調整、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問への返答、メンバー希望、団体への質問への返答など	通年	事務所、大阪連絡所	5人	40
その他事務所の運営・管理	事業を円滑に実施するための事務所の運営とその管理。	通年	事務所	—	480

以上